

2020年8月7日

各 位

上場会社名 鉦研工業株式会社
代表者 代表取締役社長 木山 隆二郎
(コード番号 6297)
問合せ責任者 上席執行役員 財務本部長 三輪 美之
(TEL 03-6907-7888)

**(訂正・数値データ)「2021年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」
の一部訂正について**

当社は、2020年7月27日に公表いたしました「2021年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正しましたので、お知らせいたします。

また、数値データにも訂正がありましたので、訂正後の数値データも送信いたします。

記

1. 訂正の経緯および理由

「2021年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の提出後に、当社において営業外収益の「その他」に一部に誤りがあることが判明しましたので、これを訂正いたします。

2. 訂正箇所

訂正後の全文を添付し、訂正箇所には下線を付して表示しております。

以 上



(訂正後)

2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年7月27日

上場会社名 鉦研工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6297 URL <http://www.koken-boring.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木山 隆二郎
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員財務本部長 (氏名) 三輪 美之 (TEL) 03 (6907) 7888
 四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	1,361	△11.8	△65	—	△64	—	643	—
2020年3月期第1四半期	1,543	23.1	△3	—	△6	—	△27	—

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 645百万円(—%) 2020年3月期第1四半期 △24百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	71.74	—
2020年3月期第1四半期	△3.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	8,524	4,466	52.2
2020年3月期	7,938	3,893	48.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 4,445百万円 2020年3月期 3,873百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年3月期の配当予想は未定としております。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示をいたします。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現時点で合理的な業績予想が困難であることから、未定としております。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期1Q	8,970,111株	2020年3月期	8,970,111株
2021年3月期1Q	3,551株	2020年3月期	3,551株
2021年3月期1Q	8,966,560株	2020年3月期1Q	8,966,560株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2021年3月期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現時点で合理的な業績予想の算定が困難であることから、未定としております。今後、連結業績予想が可能となった時点で速やかに開示いたします。

なお、上記業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)5ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界各地で新型コロナウイルス感染症が拡大し、日本国内においても4月には感染者急増により政府から緊急事態宣言が発令され、個人消費の落ち込みや企業活動が制限され景気が急速に悪化し、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境につきましては、国内市場は今後も都市の再開発、全国規模の防災・減災対策、インフラ老朽化対策、リニア中央新幹線建設など、社会資本整備が不可欠で、建設投資は今後も底堅く推移していくことが見込まれていますが、新型コロナウイルス感染症の影響によりボーリング機器関連では主要仕入機材の海外からの輸入遅延や工事施工関連においてはゼネコンの工事現場休工による施工遅延などの影響が出てきており、今後の営業成績や財務状況に与える影響の見通しが不安定な状況下となっております。

このような状況のもと、当社グループでは「2018中期経営計画」（2018年度～2020年度）の最終年度である当期も同中期経営計画に基づき、『①粗利率のアップ、②固定費低減、③売上拡大』を目指して引き続き推進してまいります。

また、当社の社是である「ONE & ONLYの技術構築のために前進」に基づき、当社にしかない「ONE & ONLY」の得意技術をボーリングスペシャリストとしての自負とともに国内・海外の市場に展開していくというもので、これまで以上に他社が追従出来ない機械と施工技術の開発を進めてまいります。

当第1四半期連結累計期間の受注は、工事施工関連において大型工事の受注が少なかったため、前年同四半期を下回りました。また、売上につきましては、ボーリング機器関連の出荷が遅れたため前年同四半期を下回りました。

以上の結果、連結受注高は、前年同四半期△3.9%減の2,239百万円、連結売上高は、同△11.8%減の1,361百万円となりました。利益面におきましては、原価率の低減はありましたが、売上高の減少と伊勢原新工場用地の取得のための諸経費（不動産取得税などで69百万円）を販売費及び一般管理費に計上したため、営業損失は△65百万円（前年同四半期は△3百万円の営業損失）、経常損失は△64百万円（同△6百万円の経常損失）となりました。（従いまして、伊勢原新工場用地関連の諸経費を除くと、営業利益は4百万円、経常利益は5百万円の利益となります。）しかしながら、6月30日の厚木工場売却による特別利益963百万円の計上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は643百万円（同△27百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）と最終利益段階では前年同四半期を大きく上回りました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当第1四半期 連結累計期間(A) 自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	前第1四半期 連結累計期間(B) 自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	2,239	2,329	△89	△3.9%
売上高	1,361	1,543	△182	△11.8%
営業損失(△)	△65	△3	△61	—
経常損失(△)	△64	△6	△58	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半 期純損失(△)	643	△27	670	—

(百万円未満は切り捨てて表示しております。)

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① ボーリング機器関連

国内での受注は前年同四半期を下回りましたが、海外において中国での大型ボーリングマシン関連と中南米へのODA水井戸機関連の受注が獲得できたため、受注高は前年同四半期と比べると30百万円増加いたしました。売上につきましては国内で主力製品のロータリー・パーカッションドリル（RPD機シリーズ）とその関連部品の出荷が減少したため、前年同四半期を△22.4%下回りました。

利益面では引き続き特機の原価高をおこさない体制により逐次、個別原価の管理を行っているため改善しておりますが、伊勢原新工場用地関連で販売費及び一般管理費が増加したことにより当セグメントの固定費負担額が嵩んだため、△84百万円のセグメント損失（前年同四半期は△75百万円のセグメント損失）となりました。（但し、伊勢原新工場用地関連の販管費増加分を差し引くと当四半期△55百万円の営業損失）

（単位：百万円）

	当第1四半期 連結累計期間(A) 自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	前第1四半期 連結累計期間(B) 自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	1,268	1,238	30	2.4%
売上高	610	787	△176	△22.4%
セグメント損失 (△)	△84	△75	△9	—

（百万円未満は切り捨てて表示しております。）

② 工事施工関連

トンネル先進調査ボーリング工事と地下水活用工事の受注は前年同四半期を上回りましたが、当社得意工種である大口径立坑掘削工事（BM工事）と長尺コントロールボーリング工事の大型受注が減少したことにより、受注高は前年同四半期と比べると△119百万円減少いたしました。売上高につきましては、引き続き多忙となっている北海道・北陸における新幹線・高速道路延伸工事でのトンネル先進調査ボーリング工事、温泉工事の完工に加えて、子会社構造工事(株)が施工するアンカー工事の完工が寄与しましたが、石灰山鈇山におけるBM工事の完工が減少したため、売上全体では前年同四半期を若干下回りました。

利益につきましては、完工高は減少しましたが原価率が△0.5ポイント改善し、販売費及び一般管理費の固定費も吸収できたため、22百万円のセグメント利益（前年同四半期は71百万円のセグメント利益）を計上いたしました。（但し、伊勢原新工場用地関連の販管費増加分を差し引くと当四半期は62百万円のセグメント利益）

（単位：百万円）

	当第1四半期 連結累計期間(A) 自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	前第1四半期 連結累計期間(B) 自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	前年同期比較	
			増減額 (A)-(B)	増減率 (A)/(B)-1
受注高	971	1,090	△119	△11.0%
売上高	750	756	△5	△0.8%
セグメント利益	22	71	△48	△68.6%

（百万円未満は切り捨てて表示しております。）

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較して586百万円増加し、8,524百万円となりました。

流動資産は、売上債権（受取手形及び売掛金、電子記録債権、完成工事未収入金）が513百万円、前渡金が伊勢原土地購入資金への充当などで118百万円減少しましたが、たな卸資産（商品及び製品、仕掛品、未成工事支出金、原材料及び貯蔵品）が500百万円、未収入金が110百万円、現金及び預金が151百万円増加したことなどから、前連結会計年度末と比較して130百万円増加し、5,960百万円となりました。

固定資産は、有形・無形固定資産で26百万円の減価償却を実施しました。当四半期には厚木工場の土地・建物を売却し、代わりに新工場用地として伊勢原の土地を購入したことにより有形・無形固定資産は761百万円増加しましたが、「特定資産の買換えにより資産の圧縮記帳」を実施したことにより繰延税金資産が316百万円減少しました。これらにより固定資産合計では前連結会計年度末と比較して455百万円増加し、2,563百万円となりました。

② 負債の部

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して12百万円増加し、4,057百万円となりました。

流動負債は、前受金が68百万円、未払法人税等が44百万円、未払消費税等が136百万円、賞与引当金が60百万円減少しましたが、買入債務（支払手形及び買掛金、電子記録債務、工事未払金）が60百万円、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金、リース債務を含む）が118百万円、預り金が56百万円、未成工事受入金が37百万円、未払費用が78百万円増加したことにより、前連結会計年度末と比較して35百万円増加し、3,181百万円となりました。

固定負債は、長期借入金（リース債務含む）が53百万円、繰延税金負債が53百万円増加しましたが、再評価に係る繰延税金負債が厚木土地売却により136百万円減少したことなどから、前連結会計年度末と比較して22百万円減少し、875百万円となりました。

③ 純資産の部

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、配当金の支払い71百万円の減少はありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益を643百万円を計上したことにより前連結会計年度末と比較して573百万円増加し、4,466百万円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末と比較して3.4ポイント増加し、52.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの影響を現段階で合理的に算定することが困難であることから未定とさせていただきます。

当社グループでは、ボーリング機器関連、工事施工関連ともにゼネコン各社の新型コロナウイルス対策動向により、また、ボーリング機器関連では海外からの主要仕入部品調達の遅れにより、業績への影響が生じることが見込まれます。

業績予想につきましては、今後開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,125,088	1,276,352
受取手形及び売掛金	1,135,109	891,037
完成工事未収入金	918,527	630,237
電子記録債権	375,802	394,769
商品及び製品	1,156,960	1,300,686
原材料及び貯蔵品	386,926	434,478
仕掛品	416,268	564,379
未成工事支出金	95,334	256,780
その他	220,116	212,104
貸倒引当金	△350	△270
流動資産合計	5,829,784	5,960,555
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,079,566	1,928,435
その他(純額)	556,320	463,925
有形固定資産合計	1,635,886	2,392,360
無形固定資産合計	63,170	67,764
投資その他の資産		
繰延税金資産	323,450	7,425
その他	87,969	98,178
貸倒引当金	△2,098	△1,979
投資その他の資産合計	409,320	103,623
固定資産合計	2,108,378	2,563,748
資産合計	7,938,162	8,524,303

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	662,115	709,347
電子記録債務	733,004	688,603
工事未払金	143,158	201,157
短期借入金	690,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	121,514	130,407
未成工事受入金	43,187	80,344
未払法人税等	61,993	17,691
製品保証引当金	20,551	20,300
賞与引当金	149,580	88,971
その他	521,425	445,169
流動負債合計	3,146,528	3,181,991
固定負債		
長期借入金	120,266	175,762
役員退職慰労引当金	14,104	14,856
退職給付に係る負債	557,751	564,235
環境対策引当金	1,904	1,904
資産除去債務	12,123	12,161
繰延税金負債	—	53,025
その他	192,179	53,573
固定負債合計	898,329	875,518
負債合計	4,044,858	4,057,509
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,165,415	1,165,415
資本剰余金	5	5
利益剰余金	2,561,677	3,442,573
自己株式	△1,597	△1,597
株主資本合計	3,725,500	4,606,396
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	187,108	△122,253
退職給付に係る調整累計額	△39,045	△38,207
その他の包括利益累計額合計	148,062	△160,461
非支配株主持分	19,740	20,858
純資産合計	3,893,303	4,466,793
負債純資産合計	7,938,162	8,524,303

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	1,543,442	1,361,173
売上原価	1,129,443	958,990
売上総利益	413,998	402,183
販売費及び一般管理費	417,969	467,329
営業損失(△)	△3,970	△65,146
営業外収益		
受取利息	6	0
未払配当金除斥益	548	884
受取保険金	59	—
保険解約返戻金	—	25
貸倒引当金戻入額	19	119
その他	901	2,615
営業外収益合計	1,534	3,644
営業外費用		
支払利息	3,562	3,110
為替差損	31	6
その他	739	171
営業外費用合計	4,333	3,289
経常損失(△)	△6,769	△64,790
特別利益		
固定資産売却益	15,779	963,852
特別利益合計	15,779	963,852
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	9,010	899,061
法人税、住民税及び事業税	838	22,530
法人税等調整額	35,067	232,147
法人税等合計	35,906	254,677
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△26,895	644,384
非支配株主に帰属する四半期純利益	199	1,117
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△27,095	643,266

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△26,895	644,384
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	2,009	838
その他の包括利益合計	2,009	838
四半期包括利益	△24,885	645,222
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△25,085	644,104
非支配株主に係る四半期包括利益	199	1,117

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

(土地再評価差額金の取崩)

当社は、第1四半期連結会計期間において固定資産の譲渡を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において、土地再評価差額金309,362千円を取り崩し、同額を利益剰余金に振り替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	ボーリング 機器関連	工事施工関連			
売上高					
外部顧客への売上高	787,321	756,120	1,543,442	—	1,543,442
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,405	—	2,405	△2,405	—
計	789,727	756,120	1,545,848	△2,405	1,543,442
セグメント利益又は損失 (△)	△75,023	71,031	△3,992	22	△3,970

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額22千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	ボーリング 機器関連	工事施工関連			
売上高					
外部顧客への売上高	610,952	750,221	1,361,173	—	1,361,173
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,114	—	6,114	△6,114	—
計	617,066	750,221	1,367,287	△6,114	1,361,173
セグメント利益又は損失 (△)	△84,287	22,315	△61,971	△3,174	△65,146

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,174千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。